

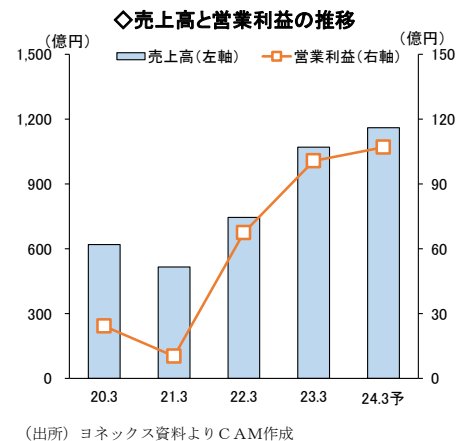
企業ニュース ヨネックス

(東証スタンダード: 7906) <https://www.yonex.co.jp>

作成者: 飯田 航

世界に展開するスポーツメーカー

バドミントンを中心にテニス、ゴルフなど幅広いジャンルのスポーツ用品を製造・販売。国内、台湾、インド、タイに生産拠点を有する。大会への協賛や有力選手との契約に加えて、一般競技者向けにラケットの試打会や契約プロによるレッスンを開催することでブランドの浸透を図る。2015年に中国現地法人でバドミントン、テニス用品の取り扱いを開始するなど、海外事業の開拓を進めている。23. 3期の地域別売上高はアジア55%（うち中国42%）、日本30%、ヨーロッパ8%、北米5%、その他2%と海外が7割を占める。国内既存工場の隣接地に研究開発施設や新工場を建設予定、テニス選手のプレースタイルなどを分析し、製品開発に反映させると同時に生産能力も強化する予定。



海外展開を加速

23. 3期の連結業績は売上高が1,070億円、前期比44%増、営業利益が101億円、同49%増。売上高・営業利益ともに過去最高を更新した。業績のけん引役は海外。競技施設やクラブ活動の本格的な再開に伴うスポーツ用品の需要増加に加えて、マーケティング施策も奏功し、各地域で大幅な増収増益。国内は部活動需要の回復や価格改定効果で増収も、原材料価格の上昇などの費用増を吸収しきれず若干の減益となった。

24. 3期の通期会社計画は売上高が1,160億円、前期比8%増、営業利益が107億円、同6%増。前期と比べ上期にマーケティング費用を投じるため上期は減益の計画。中国の、2023年1-3月（24. 3期の第1四半期に反映）の販売は、コロナの感染拡大の影響を若干受けたが、4月以降は回復傾向にあるとのこと。国内は原材料価格高騰の影響などから、バドミントンやテニス用品の価格改定を8月に実施予定。2022年に就任したアリサ・ヨネヤマ社長の下、北米のテニスやインドのバドミントンを重点市場とするグローバル成長戦略を策定。2023年6月にはインドで新たなバドミントンラケット工場が稼働、3年後には現在の3倍の生産量を目標とし、高品質な製品を供給する。

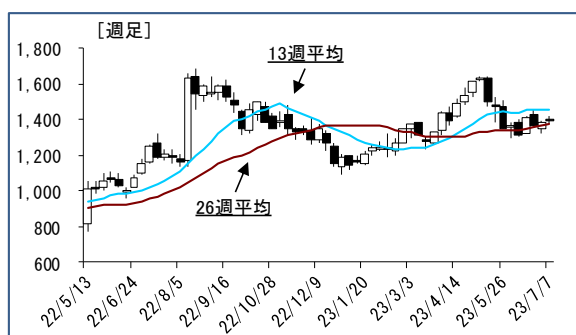
【株価動向・投資判断】

商品の高い機能性と積極的なマーケティング投資によるブランド浸透で成長が見込めよう。

<7906 ヨネックス 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
22. 3	74,485 (44)	6,738 (553)	7,246 (297)	5,780 (425)	66.1	記10.00
23. 3	107,019 (44)	10,063 (49)	9,961 (37)	7,331 (27)	84.1	13.00
24. 3 予	116,000 (8)	10,700 (6)	10,700 (7)	7,800 (6)	89.5	14.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2023/7/7)	1,399 円
年初来高値 (高値日)	1,645 円 (23/5/9)
同 安値 (安値日)	1,115 円 (23/1/6)
予想 P E R (24. 3 予)	15.6 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	607.3 円
P B R	2.30 倍
予想配当利回り	1.00 %
(1株当たり配当金 14.00 円)	
R O E (23. 3)	14.9 %
発行済み株式数	9,362 万株